

生きいき憲法

日比谷文庫

東京の九条の会をつなぐ



九条の会
東京連絡会

2011年2月6日(月) 生きいき憲法 第20号



「平和の架け橋」を使命に

新垣 勉

震災の復興は、二十年、三十年と、長い時間がかかるでしょう。この鎮魂歌(※)が、多くの人にとってじっくりと震災を振り返るための曲になればと願っています。(※東日本大震災の鎮魂歌「青い海よ」)

被爆国の日本が、安全だとして原発を使ってきましたが、絶対の安全はないことが証明されました。放射能廃棄物の処理方法も確立していません。原発以外のエネルギーを考えていくしかないと思っています。

朝鮮戦争のころに嘉手納基地にいた米兵が私の父です。父はアメリカに帰り、母は再婚したので、祖母を母親と思って育ちました。かつては親を恨んでいま

したが、人は許すことでしか前に進めません。

太平洋戦争で沖縄に米軍基地がつけられなかったら、自分はいなかったでしょう。自分が生まれ、生きてきたことが平和に結びつく。平和の架け橋になればという使命を与えられているんだと、今は思っています。

憲法9条は絶対に変えてはいけません。日本の理念として大切にしていきたいと思います。そして、もし今度、辺野古に基地をつくったら、沖縄の良さは無くなってしまうでしょう。国際交流の基地にこそ、沖縄にはなっていないのです。

私は、オンリーワンの人生を、ということはずっと言ってきました。平和の根本にも、一人一人がみんな違う存在だと認め合うこと、自分の世界観は持ちつつ相手の良いところは認めるという姿勢をどうつくっていくかがあると思います。

(テノール歌手)

*

(この一文は、「東京民報」第1719号・二〇一一年十二月四日付で、九条の会東京連絡会主催の「音楽と講演のつどい」さようなら原発。平和・九条」出演へのインタビュー記事から抜粋したもので、同編集部了解を得て掲載しました。)

さようなら原発!!

「平和・9条～音楽と講演のつどい」

900人が参加

「さようなら原発。平和・9条～音楽と講演のつどい」(主催・九条の会東京連絡会)は昨年12月14日(水)午後7時から中野ゼロ大ホールで開かれ、900人が参加しました。

新垣勉さんが熱唱!

盲目のテノール歌手新垣勉さんの『いのちを歌う』ではじまりました。「さとうきび畑」「雨ニモマケズ」など8曲を絶唱され、「素晴らしい歌声に励まされ、癒され、勇気を頂いた」「心が透きとおる気持ちになった」「音楽を聞いて涙が出たのは初めて」等々の感想が寄せられました。

フクシマからの訴え

つづいて、福島県九条の会事務局長・真木実彦さん(福島大学名誉教授)の福島からの訴え。

浜通りは孤独感・閉塞感・絶望感に打ちひしがれている。原発処理は今世紀一杯かかるだろう。南相馬市に帰る住民はいなく生活基盤である病院や幼稚園がないのが決定的。人間が住めなくなった双葉郡は、あっという間にゴーストタウンの悲惨な状況。中通りは新米がセシウム

で汚染されるなど原発被害が後から追いかけてきている。こうした状況の中で苦しみながら生活している人間がいることを知って欲しい。

しかし政府は、原発の結末の実証がないまま他地域の原発再稼働と原発輸出を進めて福島に「大きな網」をかぶせようとしている。県内では原発に依存しない福島を作るビジョンを打ち出し、県もその支持声明を出したが外から網をかぶせて心の交流を断とうとしている。このままでは福島は絶望の中で生きていくこととなる。「大きな網」は我々の力で打ち破る以外にない。

そのためにも生身の人間が苦しみながら生きていること、現場で何が起きているか、基本的的人権・平和的生存権の憲法を持つ国民として「原発再建を推し進めていいのか」を現場から訴え続けていく。福島県九条の会が出版した『福島は訴える』(かもがわ出版)を武器に全国に発信していくので、「人間がこんな状況になっていいのか」の“血の叫び”を受け止めて欲しい。全国でぜひ討議して欲しい、と訴えられました。

「現場からの訴えに心を打た

れた」「福島の人たちの苦しみを改めて思い、決して無関心であってはならず、忘れてはいけないと思った」等々の感想が寄せられました。

「脱原発」メッセージ 城南信用金庫理事長

つづいて、城南信用金庫理事長・吉原毅さんのメッセージ「地域をまもる信金の使命を果たすためにも原発に頼らない安心できる社会を作っていこう」(別項掲載)が読み上げられ、大きな拍手に包まれました。

原発問題は9条問題 小森陽一さんの講演

最後に、九条の会事務局長・小森陽一東大教授の講演『憲法が生きづく日本へ』でした。

小森さんは、沖縄と福島の問題は構造的に同じであると歴史的に解明されたうえ、戦後の「あいまいな日本」(大江健三郎)の根本問題は9条の下で事実上の再軍備と日米軍事同盟受け入れ・核抑止力への信頼、そして原子力発電の安全性への理由のない確信から成り立ってきたことにある。

しかし、今直面する問題の出発点が見えてきた。改憲派が「原発は潜在的な核抑止力」と公言しているように憲法改正勢力と原発推進勢力は一体という戦後史の根幹問題をしっかり見つめ直していく必要がある。財界・

政治家・官僚・学者・メディアの五角形が国民を騙し続けてきたが、これまでデモンストレーションしなかった人びとが立ち上がっている。

原発問題は9条問題だという変革の道筋が見えてきた。憲法を掲げて行動を起こす草の根の対話が大事となっている。9条をもつ憲法を掲げて安保と原発をなくしていこう、九条の会の出番だ、と結びました。

「縦横な鋭い歴史分析で、今日の直面している状況がよく分かった」「戦後史のまちがいが目に見えてきたということか。原発・安保なくし、やり直せるチャンスだと思う」「原発と核兵器、安保と支配の構造は分かりやすかった」「日本の現代史を学ぶことが大事だと思った」「原発と原爆はイコール、安保と原発協定はセット、納得。そういう流れだったのか」等々の感想が寄せられました。(なお、「福島の訴え」と小森講演は、インターネットで「JCJCAST」を検索して見るができます)。

時機に適ったつどい

このつどいは、生きる権利・幸せを求める権利を著しく侵害された3・11被災者の救済、破壊された地域コミュニティの再生、原発事故早期収束と原発廃止、消費税増税反対、TPP交渉参加反対等々の国民要求が高まる中で開かれました。

同時に、国民主権を骨抜きにする国会議員比例定数削減、明文改憲に向けて危険な段階へ踏み出した憲法審査会の始動、民主と自民が今春に改憲案発表という、国民要求の「陰」で国家改造の動きが強まる中で開かれました。

3名の方々の力強いメッセージは、巨大な政治的人災を痛感した私たち主権者が「人間が一番大事」をキーコンセプトとす

る日本国憲法の真の実現を求める新しい情勢を反映した内容豊かなものだったと思います。

そして、最後に「人間らしく生きたい」「安心して働きたい」「平和のうちに生存を」が切実な要求となっている今、憲法が生きいきとする社会の実現へ向けた「大きなうねり」を作り上げていこう、を大きな拍手で確認しました。(島田修一)

メッセージ 城南信用金庫 理事長 吉原 毅

本日は、「さようなら原発」をテーマとした音楽と講演の夕べを開催するにあたり、一言ご挨拶を申し述べさせていただきます。

本会を主催される「九条の会」の方々と私は、「脱原発」という点で思いを同じにするものでございます。

私におきましては、今回の原発事故により、地域の住民が住むことができなくなったり、福島の信用金庫の半数の店舗が閉鎖を余儀なくされる事態に陥ったことで、原発が如何に危険なものであるか衝撃を受け、また、地域を守るとい信用金庫の使命を果たせない、福島の信用金庫の方々の無念さが痛いほど分かりました。

そこで、福島に迷惑を掛けた事、原発に対して無関心であったことを大いに反省するとともに、信用金庫の使命を果たすためには、日常業務をしているだけでは地域を守ることはできないと考え、城南信用金庫は、「原発に頼らない安心できる社会へ」というメッセージを掲げるに至った次第でございます。

企業も、人間同様、社会によって生かされている存在であり、理想や魂、誇りを持って発言し、行動すべきだと考えております。

「九条の会」の方々は、世界の平和と明るい未来を求める立場から、事故の以前より、一貫して原発に対して反対してお聞きしております。大変素晴らしいことだと感じました。

私どもも、金融機関の立場から、健全な未来をつくるため、地域を守るため行動して参りますので、どうか皆様方におかれましても、今後とも益々のご活躍、ご健闘されることを心よりお祈り申し上げます。

日暮里九条の会

【日暮里九条の会】は荒川区でも上野公園がある台東区に近い地域にあります。この日暮里に故井上ひさしさんら9人の方々呼びかた九条の会の呼びかけから2年後の2006年7月、吉田喜一教授（都立産業技術高専）など代表委員6人と世話人7人、会員約70名が荒川区初の九条の会を結成。会は憲法九条を守ろうという人なら誰でも参加でき、会費は年1人500円です。

【活動内容】は学習会や宣伝・署名行動の他、会員の意見交流の場として、しんぶん「あおぞら」を19号まで発行。読者の方から好評をいただいています。カラー印刷も大変に好評で、編集部員一人の方の好意です。17号まではB4縦両面で1,000部、18号からA3横両面4Pで600部を発行。配布先は会員約120名と他九条の会や諸団体へ、事務局員の方々が発送・配布。主な活動は学習会や文化行事を四



季折々に行っていますが、つどいには比較的集まりますが、高齢者が多いため宣伝行動は参加者不足です。

【主な行事】をふり返ると、

07年10月13日 一周年のつどいをサンパール荒川で、映画評論家・日本映画復興会議事務局長の羽瀨三良さんの「戦前、映画監督になるには厳しい思想調査があった」の講演や、朗読ささの会の群読「戦場」と、井上真央さん（11）の二胡演奏に82名が参加。

08年3月30日 「東京大空襲訴訟支援のつどい」では、原告の一人である清岡美知子さんの「父と姉を亡くし、助け出された母と生き残りました」という講演や、鎮魂の二胡演奏を上條真央さんが演奏し、清岡さんの職場の同僚OB7人も加わり35名が参加。

09年3月20日 「安房の戦跡ツアーと早春の花摘み」一泊バス旅行は、本土に米軍が初上陸し軍政を敷いた館山の戦跡めぐりを行い、17名が参加し大変好評でした。

10年12月10日 映画「いのちの山河」Ⅱの荒川上映会（社保協など共催）には、区内の高齢者団体へのお誘いも行い、入場券購入者が2,200名をこえ人口比で1.2%になり、翌年の区議選で革新政党6名の当選に大きく貢献。

11年10月12日 これまでであった東尾久、西尾久、南千住、日暮里の各九条の会の4連絡会が発展解消し作られた、憲法九条を守る諸団体が結集する、荒川区初の「荒川区九条の会連絡会」が発足。映画「無言館」をムーブ町屋ホールで上映、約400名が参加しました。

【その他】日暮里九条の会は10年9月サンパール荒川で「空襲被害者の人間回復を求める荒川のつどい」を行い、超党派16団体が参加する会を結成。また区内で九条のない町屋、荒川地域へ会の結成を呼びかける活動もしています。

【しんぶん「あおぞら」】は、1面の「証言」で、九条を守ろうという様々な分野の方に寄稿をお願いし、また会員の戦争体験記事と聴き書きも掲載しています。（以下、6ページに続く）

その他元中日ドラゴンズ球団社長の佐藤毅さん、クリスチャン作家の石浜みかるさん、スエーデンのケンジ・ステファン・鈴木さん等多士済々の方々より寄稿していただきました。

なお4月頃発行の第20号までを縮刷版として発行予定。

【購入希望者】定価は現在未定ですが、河合伸忠（03-3801-2378 F A X 兼）までご連絡下さい。

☆東京・大交流会 実行委員会からの報告

◇第8回・第9回◇

東京大交流会・第8回実行委員会の記録

昨年12月19日(月)夜、東京大交流会の第8回実行委員会を開きました。参加者は22人。

まず最初に、事務局から12・14音楽と講演のつどい「さようなら原発。平和・9条」について報告がありました。参加者はスタッフも入れて約900人で29人から感想が寄せられました。企画の一つひとつについては「すばらしい」との感想がほとんどでしたが、運営全体については厳しい意見もありました。また財政については黒字を出し、今後の活動のための財政基盤強化が果たせました。福島県九条の会からの訴えがあったこともあって多額の募金もありました。

以上の報告を受けて、この「つどい」をめぐって意見交換しました。反省点としては、スタッフの仕切りが弱い、全体の進行についても調整不足、特に終了時間が遅れたのは参加者にとって大きな不満のはず、宣伝チラシに開始時間のミスがあった、この宣伝は都内800の九条の会にどこまで届いているのか調べる必要がある、などが出されました。また募金の配分についていろいろな意見が出されましたが、最終的には被災地3県(岩手、宮城、福島)の九条の会に

全額送ることになりました。

続いて、2012年7月1日の「東京大交流会」について意見交換をしました。出された意見としては次のようなものがありました。

東京連絡会のつながりづくりについては、これまでの企画でどこまでつながりを生かしているのか、名簿の再調査をする必要がある、いやむしろこの交流会を通じてどれだけ連絡先を広げられるかが大事だと思う、などの意見が出ました。また企画の内容については、原発問題をどう扱うのか、開店休業になっている会も参加できる企画が必要、若い人が来るテーマはなんだろう、企画申し込みが2月末締切りなのは速すぎる、などの意見が出されました。またキャッチフレーズや打ち出しも工夫する必要がある、今後の工程表を提示して欲しい、など全体に関する意見もでました。

以上の意見・要望については事務局が引き取って、次回の実行委員会で叩き台を提案することになりました。

東京大交流会・第9回実行委員会の記録

1月30日(月)夜、エデュカ

ス東京の5F会議室にて、東京大交流会の第9回実行委員会を開きました。参加者は21人。

冒頭、今年最初の会議であり情勢問題を論議することにし、まず仲築間卓蔵さん(マスコミ九条の会)が話題提供しました。新聞の元旦社説が全く同じ内容であったことに驚いたことから始まり、メディアが国策に協力し、原発問題が発表報道であることを指摘。城南信用金庫が企業の社会的責任を追求して、「脱原発」を東京電力との契約打ち切りに発展させていること、カタログハウスの「脱原発」コマーシャルが民放から断られるという事態のもとで、「小売業の立場から九条を考える」ことを追求していること、などを紹介。井上ひさしさんが晩年の日記で「過去が泣いている」と書いた。ぼくは「憲法が泣いている」と言いたい。だから「憲法を泣かせない」という決意で7月1日を迎えたい、と結びました。そのあと、数人から発言が続きました。

続いて、事務局から7月1日に開催予定の「東京大交流会」についての準備状況と方針についての報告がありました。

(1) 日時は今年の7月1日(日)10時から4時、場所は正則高校の体育館と23教室(予定)、規模は1,000名を目指す。

(2) 企画の全体像は、全体会・分科会・ブース出典・自己

紹介帖づくりの5企画。全体会には渡辺治氏に情勢と九条運動に関する基調講演をお願いし、分科会では情勢と九条運動に関わる様々な論点ごとに分科会を設定して交流する。自己紹介帖では東京にある九条の会の過半数から自己紹介カードを書いてもらって一冊にまとめる。

(3) 今後、次のような構成の実行委員会を作っていく。実行委員長～事務局長～その下に記録班・広報班・企画班・ブース班・設営班・財政班・組織班を起し、また会場現地の港区の九条の会にも協力依頼する。

(4) 今後の準備の日程は以下のとおり。4月以降は毎月プレ企画を打って雰囲気盛り上げていく。

1月：企画草案、自己紹介帖の提案。

2月：キャッチフレーズ確定、講師確定、企画の具体化提案、宣伝開始

3月：企画内定、宣伝開始(3.11以後)

4月：組織、(プレ企画)

5月：ブース決定、(プレ企画)

6月：(プレ企画)

以上の報告を受けて自由に討論しました。

まず自己紹介帖について次のような補足の説明がありました。1つ会にA5(紙の半分)版のカードに会の名前・連絡先・自己PRなどを書いてもらい、そ

れを400以上の会から集めて一冊の冊子にする。1枚両面で4つの会のカードが載るので、1冊100頁以上、それを1,000部以上印刷する。大変な作業になるが、東京の九条の会の連絡帳のようなものがないのでぜひ作りたい。今ニュースを送っている300数十の会には早速書いてもらいたい。

全体会については基調講演だけでなく、文化企画もあった方がいいだろうとの意見がでました。

分科会については様々な意見がでて激論になりました。ひとつには様々な論点・テーマ案が提案されているが、これでは九条の会というものが見えてこない、国民の意識が原発や沖縄基地問題などに移っていて九条が打ち出しにくい情勢だからこそ九条の会が九条を強調しなければ忘れ去られてしまう、改憲策動は強まっているのだから、もっと九条を打ち出すべきだという意見がありました。また情勢の論点だけではなく、そもそも九条の会の運動がうまく広げられずに悩んでいることを打ち明けあい、話し合えることが大事なのではないかという意見も。さらに日の丸・君が代・教科書問題などがどのように九条改憲と結びついているかを明らかにすること、さらには九条が蹂躪されていることを多面的に告発することが大切ではないかという意見。分科会ではなく分散会にして全体会の基調講演を受け

てどうするかを各々話し合う場にした方がいいのではという意見も出ました。

なお、実行委員長は仲築間卓蔵さん、事務局長は島田修一さんを拍手で確認しました。

最後に、今後、準備が進むごとに(毎月1回ぐらいのペースで)東京大交流会の準備ニュースを発行したらどうかとの提案がありました。

事務局から、今回は企画と準備工程の全体像を提案して意見を出してもらうことが主眼だったので、次回にはより具体的な形にしていきたいと思いますという提起を受けて閉会しました。次回の実行委員会は、2月27日(月)18:00～、けんせつプラザ東京で開きます。

(4ページから続く)

【記事内容】を紹介すると、第3号(07年1月)は元東京新聞印刷局長・故及川吉夫氏の特攻体験談と原爆投下直後に広島で救助できぬ無念さを。第6号(07年9月)は石橋湛山記念財団評議員・山口正さんの「九条擁護論者—石橋湛山の平和思想」の掲載。第10号(09年2月)は、日本の憲法九条は「人類の英知」と賞賛した米国「九条の会」創設者オーバービー博士の紹介を元東京新聞特派員・編集委員の林茂雄さん。

.....
<催し>

俳優座9条の会／みなと・9条の会：共催

平和憲法を守る一点で手をつなごう

群読日本国憲法

構成：吉原公一郎

演出：安川修一

出演：神山寛、小笠原良知、遠藤剛、加藤剛、岩崎加根子、ほか一般、高校生など。

戦没画学生慰霊美術館「無言館」のこと

無言館・館主 窪島誠一郎

みなと・9条の会

会長挨拶：ジェームス三木

合唱「私をほめてください」

指揮・高橋一美

日時：2012年3月28日（水）
18時30分

場所：俳優座劇場（地下鉄：「六本木」駅下車）

会費：1,000円

問い合わせ：TEL 03-3586-3651

12・14のつどいで寄せられた東日本大震災被災地カンパ

443,581円

次のように送りました。

福島県九条の会へ 243,581円

宮城憲法9条の会へ 100,000円

平和憲法9条を守る岩手の会へ 100,000円

福島県九条の会・真木實彦事務局長からカンパお礼のメール

九条の会東京連絡会 御中

まず、年の初めのご挨拶を申し上げます。

昨年末には貴会主催の「音楽と講演のつどい」のお呼びいただき、挨拶の機会まで与えてくださり、感謝に堪えません。

このたびはまた、多大なご芳志をお送りいただき有難うございました。

その後も当地福島は刻々と状況が変わり、双葉郡内に半永久的な処理施設の設置が正式に提案され、地元の混迷は続きそうです。若し仮にこれを受け入れざるを得ないとしても、仮設ではない半永久的な「コミュニティ」そのものを日本のどこかに作るという、日本史上初めての事態に直面することになります。今まで小出しに後追的に繕ってきたツケが今年は噴出する年になることと覚悟しております。そのほかにも県内の各地域ごとに異なった課題解決が迫られております。

頂きましたご芳志は次回の事務局会議で討議を致し、有効な使い道を検討させていただきます。結果はのちほどご報告申し上げますが、今回は取りあえず御礼までにて失礼いたします。皆様方のご健勝を祈り上げます。今後とも相互交流が一層強まることを、切に希望しております。

1月6日

福島県九条の会・事務局長 真木實彦

*各地9条の会・短信

新成人に訴え

*9条の会・こがねい

小金井市主催の新成人を祝う

式典が1月9日10時から小金井駅南口の市民交流センターで開かれました。

9条の会・こがねいは例年どおり、メッセージカードを配布して、新成人の門出を祝うとともに憲法9条を掲げる平和国家

日本の、これからの担い手になることをよびかけました。

賛同者集会で交流

*国分寺九条の会

国分寺九条の会は、2月5日（日）に国分寺労政会館で賛同

者集会を開き、「最近の国会での憲法改悪につながる動き」を中心に山口真美弁護士（三多摩法律事務所）のお話を聞き、交流と話し合いをもちました。

新年の意見交流

* 新宿女性九条の会

新宿女性九条の会は、1月7日(土)に若松地域センターで、渡部治さん（一橋大学・名誉教授）を招き、「どうなる？これからの日本～2012年を、どうきりひらくか」とのお話を聞き、語り合いました。

会報を毎月発行

* 外銀九条の会

外国銀行で働いていた人達でつくっている外銀九条の会は、B5版12頁の会報(カラー)を毎月発行(2012年1月で第47号)して会員同士の交流を図っています。また、毎月、大手町交差点で街頭宣伝行動をおこなうとともに、「日本近現代史を読む」の学習会も毎月開催しています。

宇都宮健児さん招く

* 立花九条の会

墨田区の立花九条の会は、昨年12月18日、立花4丁目集会所で日本弁護士連合会会長の宇都宮健児さんを招いて講演会を開き、110人が参加しました。「平和で希望の持てる社会をめ

ざして」のテーマで原発・貧困・平和を語ってくださいました。

大爆笑と涙で包まれて

* 大田九条の会

大田九条の会は、『東日本大震災・福島原発 事故被災者支援 “いのちを守るチャリティーフェスタ in 大田” 松元ヒロ&ナターシャ・グジー』を12月12日、アプリコホールで開催。会場いっぱいの800人が大爆笑と涙に包まれました。募金は40万円を越え、岩手・宮城・福島の九条の会へ送りました。

* 事務局だより

九条の会全国交流集会

* 報告集とDVD

第4回九条の会全国交流集会の報告集 ブックレット

B5判64ページ
頒価500円(送料別)
DVD(全体会のみ)
頒価1500円(送料別)

申込みは、九条の会事務局へ

Fax : 03 - 3221 - 5076

Tel : 03 - 3221 - 5075

九条の会 東京の大交流会

分科会、展示、グッズ販売の申込みは2月末までです

今年7月1日に開催予定の「東京の九条の会・大交流会」の開催趣旨と要綱を、「生きいき憲法」第19号に同封して昨年

12月に送りました。届いていまずでしょうか。同時に、主体的に企画したい分科会の希望や展示、グッズ販売などの申込書も添付しました。

その第1次締め切りは、2月29日(水)です。

ぜひ、会の企画についてのアイデアも寄せてください。

事務局まで、FAX、メール、郵便などをお願いします。

九条の会・東京の大交流会 第10回実行委員会ご案内

●日時：2月27日(月)
午後6時～8時

●場所：けんせつプラザ東京
(東京土建会館)
※JR中央線・大久保駅下車

■学習：「新たな改憲策動～憲法審査会が始動」

高田健さん(九条の会事務局)

第11回実行委員会の予定

●日時：3月26日(月)
午後6時～8時

●場所：豊島区民センター
(池袋駅下車)

発行 九条の会東京連絡会
〒101-0064 東京都千代田区
猿楽町1-4-8 松村ビル4F
TEL 03-3518-4866
FAX 03-3518-4867
ホームページ
<http://www.9jo-tokyo.jp>
メールアドレス
mail@9jo-tokyo.jp